

「たしかに名医のお見立てのとおり重い病気になって非常に難儀なんぎをしておる、どうか治してくんにかい。」

と、頼んだだど。

宗頤そうえは、早速承知さつそくしやうちして、体の六ヶ所に灸点きゆうてんして、糟尾家かすおけに伝わる秘蔵ひぞうの「明灸神薬めいきゆうしんやく」を老人に渡すと大變喜たいへんよろこんで帰っていっただど。

それから、三、七、と二十一日間治療してから雷様が言っただど。

「先生の明灸神薬めいきゆうしんやくでたちどころに、もとおりの体に治ったがら。」と。

しばらく経たったある日のこと、雷が鳴りひびき大雨が降ってきたんだど。

雷様が、童子こどもになって降りてきたんだど。

「おかげさまで、もとの体に治ったがらし。」

この間の御礼おれいだと言って、一卷の医書と、大黒像と瑠璃色るりいろの壺つぼを渡して帰っていっただど。